

市川市立図書館のメールマガジンをお送りいたします。

「メールでのサービス」で配信をご希望された方へお送りしています。

□ ■ □ -----
■ □ ■ 市川市立図書館メールマガジン 第 118 号 2017.2.15
□ ■ □ -----

立春が過ぎ、暦の上では春となりました。寒い季節はゆっくりとですが暖かくなろうとしています。

しかし油断は禁物です。千葉県では 1 月 25 日に、インフルエンザ警報が発令されました。この警報は、長期だと 5 月まで解除されないことがあります。手洗いやうがいなど、しっかりと予防対策をとることが大切です。どうぞ体調を崩されませんようお気を付けください。

■ ■ 図書館からのお知らせ □ -----

◆蔵書整理による休館のお知らせ

○市川駅南口図書館と中央図書館は、蔵書整理のため次の日程で休館させていただきます。休館期間中は大変ご不便をおかけいたしますが、皆様のご協力をお願いいたします。

◇市川駅南口図書館 2 月 16 日（木）～2 月 17 日（金）

◇中央図書館・こどもとしょかん 2 月 20 日（月）～2 月 23 日（木）

■ ■ テーマ展示 □ -----

◆「元気になろう 寒い冬から春に向けて」（中央図書館／2～3 月）

寒い冬、心も体も縮こまっていますか？

この季節を迎えると、東日本大震災の辛い記憶がよみがえります。あれから 6 年、私たちはその記憶を忘れずに、未来に向けて、一日一日を大切に、元気に過ごしていきたいと思えます。

そこで今回の展示では、季節の移り変わるこの時期に、リフレッシュし、暖かい春に向けて、心と体が元気になれるような本を集めました。

元気になる方法は人それぞれ。スポーツや旅行、映画に音楽、美術館巡り、美味しいものを食べるなどなど。もちろん読書も。

気になった一冊をぜひ手に取ってください。

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/library/info/1194.html>

○展示の本からいくつかご紹介いたします。

◇『紙つなげ!彼らが本の紙を造っている』佐々涼子／著（早川書房 2014）

本の紙がどこでどうやって造られているか、気になったことはありませんか？

東日本大震災で被災した石巻市には、日本の出版物に使われる紙の約4割を生産する工場があります。被災状況はすさまじいものでしたが、半年で工場を復興させるという目標に従業員は立ち向かいました。その努力と地域の方々の励ましにより、奇跡の工場再生を果たしたノンフィクションです。

図書館の本や雑誌も、石巻の工場で作られた紙のおかげで私たちの手に届いているのです。困難に負けずに復興に貢献したその力は、本を手にする私たちの喜びや励みにつながっているといえるでしょう。

◇『元気になる!日本の森を歩こう』日本の森を歩く会／著（洋泉社 2011）

森というと、世界遺産に登録されているような原生林を思い浮かべることが多いかもしれませんが。日本人は古来、山とともに暮らしてきました。「里山」といわれる身近な森は、人が積極的にかかわることにより、人も森も健やかになれるものとして共存してきました。

この本は、日本各地の森や、そこに根付く巨樹、森を理解するための知識など森の魅力を紹介してくれます。

あたたかくなったらぜひ森に出かけて、元気をもらってはいかがでしょうか。

◇『元気が出る俳句』倉阪鬼一郎／著（幻冬舎 2014）

俳句というと、少し取っ付きにくいイメージを持つ方が多いのではないのでしょうか。

季語がないといけない、文字数は5・7・5の定型で、それに文字数が少ないため何を言おうとしているのか分からない、などなど。

ところが、この本に掲載されている俳句は季語が無く、文字数も自由で、ユニークなものが多く、楽しく読めるのではないのでしょうか。

「宇宙精神研究所の茶碗蒸し（川名つぎお／作）」などは、「え、これが俳句！どこで切れるの？」という感じです。

「コンビニのおでんが好きで星きれい（神野紗希／作）」、「まず生きるは

息をすること春立ちぬ（岸田稚魚／作）」など、100名以上の俳人の、千句を超える俳句が作者のコメント付きで紹介されています。俳句に対するイメージが変わるかもしれません。

.....

◇メールマガジンの登録・解除はこちら

<https://opac.city.ichikawa.chiba.jp/winj/opac/top.do>

◇このメールは自動配信されています。このアドレスに返信いただいても内容の確認およびご返答ができません。ご了承ください。

市川市中央図書館
〒272-0015 千葉県市川市鬼高 1-1-4 047-320-3346
